

民法問題集・（O2-MP23）【正誤表】

本教材に誤植がございました。学習に際し、大変ご迷惑をおかけしますことをお詫び申し上げます。
下記をご確認、訂正の上お使いいただきますようお願い申し上げます。

★2024/1/9更新

箇 所		誤	正
P. 159	NO. 79解答・解説 選択肢3の2行目	・ ・ 権利についての <u>処分</u> についての処分につき ・ ・	・ ・ 権利についての <u>処分</u> につき ・ ・
P. 481	NO. 240解答・解説 選択肢アの4・5行目	・ ・ 詐害行為取消権の被保全債権は、原則として、詐害行為の前に成立していたことが必要である。これに対し ・ ・	・ ・ 詐害行為取消権の被保全債権は、必ずしも詐害行為の前に成立していたことを必要としない。 ・ ・
P. 581	NO. 290解答・解説 選択肢4の最終行	なお,	なお, 留置権は、契約当事者以外の第三者に対しても行使することができる。
P. 787	NO. 393解答・解説 選択肢1の1行目	「 <u>成年に達した者は</u> 、養子をすることができる。」	「 <u>20歳に達した者は</u> 、養子をすることができる。」